

## 「居合道範士称号を拝受して」

居合道範士八段 石田 純士

令和5年5月3日京都で行われました称号審査会において居合道範士の称号を賜りました。これも偏に諸先生・諸先輩・皆様方のご指導とご支援の賜物と衷心より御礼申し上げます。

本県居合道における範士称号の受領は、本県に居合道を普及・発展させた故浅利成和先生（居合道範士八段）が平成4年に合格されて以来、二人目となります。

私の居合道人生の大きな転換点となったのが、夢想館浅利道場で開催された「他流に学ぶ会」で講師として指導された香川県の故岩田憲一先生との出会いです。

演武を行いながら大きな声で丁寧に理合を説明されました。古流の理合や居合道の歴史の説明は、知見に溢れており、どうしても師事したいと思いました。

その後、浅利先生のお許しを得て、岩田先生の弟子としての修行が始まりました。私が38歳の時から20年く、年に3～4回香川に通ってご指導を賜り無双直伝英信流の研究と修行をしてまいりました。

秋田に帰ってからは習ったことを復習し、やれるようにして次の回に見て頂くという毎日稽古の居合道主体の生活が始まりました。

当初は観音寺の旅館に泊まり2泊3日で稽古しました。最初の稽古で演武した時、「そげな居合」という厳しいお言葉を頂いてしまいました。何としても上手になりたい、少しでも多くの教えを吸収したいと必死に食らいつくよう真剣にへトへトになるまで稽古に励みました。

基本動作と1本目の「前」の稽古が半年程続きました。そしてついに、「そろそろ2本目にいくか」と言われたときは、涙が出るほど嬉しかったことを覚えています。そのころになると、先生のご自宅に泊めて頂き稽古するようになりました。

この稽古の他、講習会や海外の方が稽古に来られるセミナーなどにも参加させて頂き、稽古に励むと共に先生の集団や個人の指導の仕方を間近に見て学ぶことが出来ました。

平成23年に師匠の岩田先生が99歳で亡くなられた後は草間純市先生に師事し、全日本剣道連盟居合を中心に指導いただき稽古に励んでまいりました。その間、全国規模の大会・講習会にも参加し、多くの先生方のご指導をいただくとともに全国の剣友との交流を図ってまいりました。

平成27年5月3日には4回目の挑戦で八段に合格することが出来ました。その後も月・水・金曜日は一般の方、火・木は学生指導、土・日は自分の稽古を続けて参りました。

さて、今回の審査会は八段受有後8年経過した時点でしたので、「範士」合格との報をいただいたときは、感激で胸が一杯になりました。思い起こせば、居合道へ導いて頂いた浅利先生の「生涯錬磨」、古流をみっちり仕込んで頂いた岩田先生の「一生稽古、終始基本」、草間先生の「古流だけにこだわることなく、全剣連居合を含め多様な抜き方が出来るように」というご指導を頂いた日々が思い起こされました。

更に、これまでご指導いただいた多くの先生方、一緒に稽古した剣友との日々が走馬燈のように頭の中を駆け巡り、感謝の念が込み上げてまいりました。

師匠と同じ範士称号という重責に身の引き締まる思いで一杯です。

今後は、一層精進を重ね称号に恥じることがないよう微力ながら斯道発展のため精一杯努力して参りたいと思います。